



～地域とともにある学校づくり～

品川コミュニティ・スクール



品川コミュニティ・スクールとは、地域の方々に学校運営に参画していただく「校区教育協働委員会」と実際に教育活動を支援する「学校支援地域本部」の二つを設置している区立学校を指します。

学校と地域が連携・協働して子どもたちを育てていく仕組みづくりを進めていきます。



品川区教育委員会

品川教育
- For The Next Generation -
ルネサンス

品川コミュニティ・スクールの概要

目的

保護者、地域住民、学識経験者等が学校運営に参画することで、学校と地域住民が一体となって、継続性を保ちながら、教育活動の改善や児童・生徒の健全育成に取り組みます。

また、地域全体で学校教育を支援することで、学校の教育活動の充実を目指すとともに、地域の人材の有効活用や地域の教育力の活性化を図ります。

特徴

学校運営に参画する「[校区教育協働委員会](#)」と実際に学校支援を行う「[学校支援地域本部](#)」の二つの組織を同時に設置します。また、それぞれの組織の運営に関わり、学校と地域をつなぐ、学校地域コーディネーターを各学校に配置します。

効果

1 組織的・継続的な体制の構築 = 持続性

2 当事者意識・役割分担 = 社会総掛かり

3 目標・ビジョンを共有した「協働」活動

魅力

子どもにとっての魅力

- 子どもたちの学びや体験活動が充実します。
- 自己肯定感や他人を思いやる心が育ちます。
- 地域の担い手としての自覚が高まります。
- 防犯・防災等の対策によって安心・安全な生活ができます。

教職員にとっての魅力

- 地域の人々の理解と協力を得た学校運営が実現します。
- 地域人材を活用した教育活動が充実します。
- 地域の協力により子どもと向き合う時間が確保できます。

保護者にとっての魅力

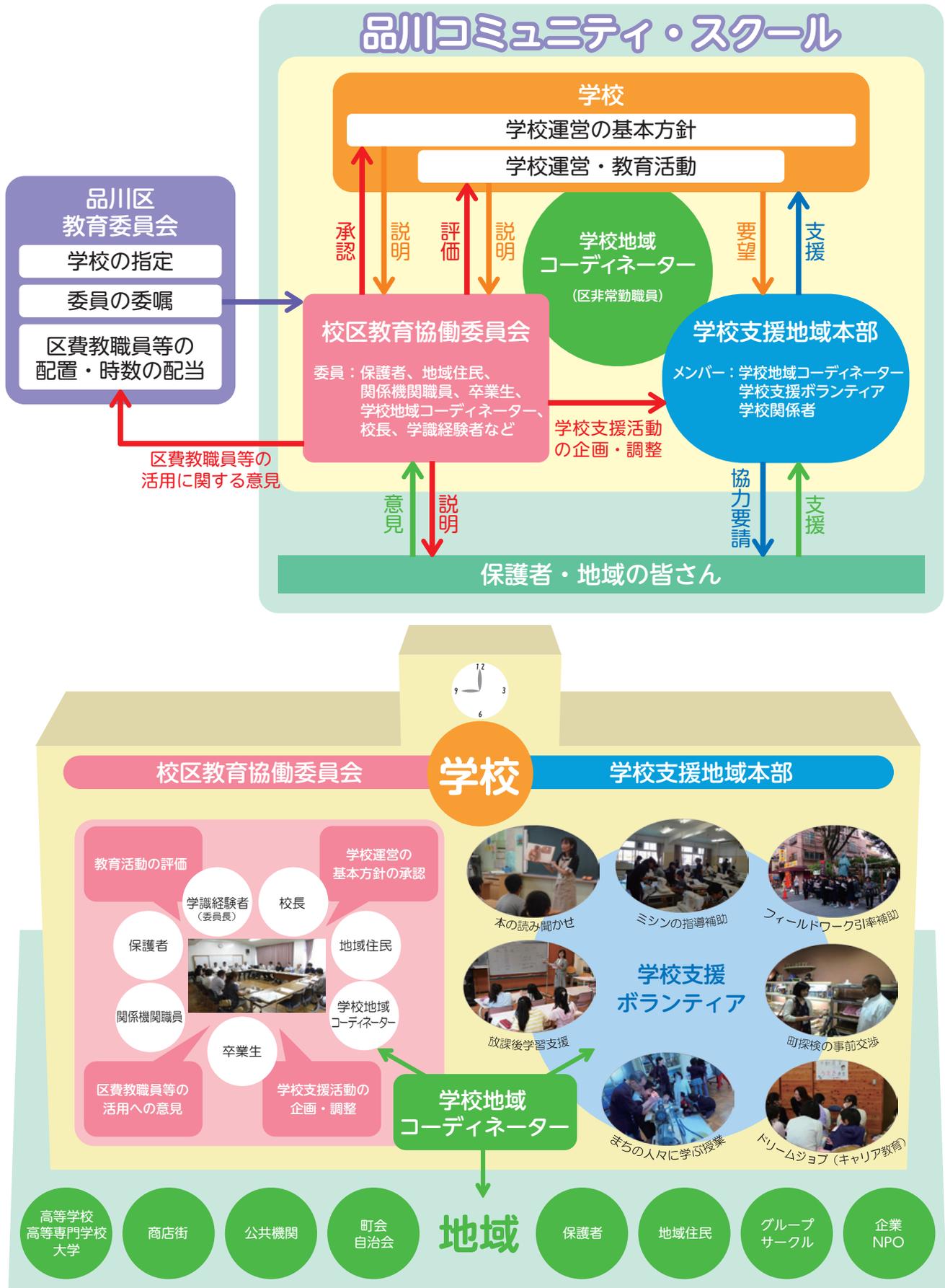
- 学校や地域に対する理解が深まります。
- 地域の中で子どもたちが育てられているという安心感があります。
- 保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できます。

地域の人々にとっての魅力

- 経験を生かすことで生きがいや、やりがいにつながります。
- 学校が社会につながり、地域社会の拠点となります。
- 学校を中心とした地域ネットワークが形成されます。
- 地域の防犯・防災体制等が構築できます。

品川コミュニティ・スクールの組織図

品川コミュニティ・スクールの組織図



校区教育協働委員会の概要

保護者、地域の方々に学校運営に参画していただきます

学校と地域の方々（保護者・地域住民等）が学校や地域の課題を共有し、共通の目標・ビジョンをもって一体となって地域の子どもたちを育てていくことは、子どもの豊かな育ちを確保するとともに、そこに関わる大人たちの成長も促し、ひいては地域の絆を強め、地域づくりの担い手を育てていくことにもつながります。

4つの役割

- 1 学校運営の基本方針を承認する
- 2 教育活動の評価をする
- 3 区費教職員等の活用に関する意見を述べることができる
- 4 学校支援活動の企画・調整をする

メンバー

学 校 管 理 職：学校運営の責任者

保 護 者：児童・生徒の生活についてよく知っている。

地 域 住 民：子どもたちのために、地域でできることを知っている。

学 識 経 験 者：学校の教育活動について専門的な知識をもっている。

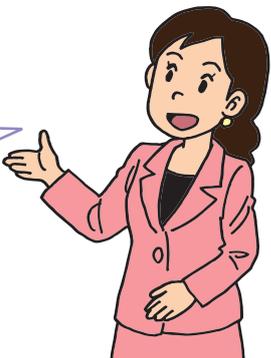
関 係 機 関 職 員：それぞれの機関の専門的な情報をもっている。

卒 業 生：学校の伝統やよいところを知っている。

学校地域コーディネーター：学校支援地域本部の役割をよく知っている。



これまでの校区外部評価委員会とはどう違うのですか？



校区外部評価委員会では、教育活動の評価を中心に行ってきましたが、校区教育協働委員会では、評価活動に加えて、学校運営の基本方針の作成などにも協力していただきます。

校区教育協働委員会の機能

3つの機能

① 熟議

関係者がみな当事者意識をもち、子どもたちがどのような課題を抱えているのかという実態を共有するとともに、地域でどのような子どもを育てていくのか、何を実現していくのかという目標・ビジョンを共有するために「熟議（熟慮と議論）」を重ねることが大切です。

熟議の実施により、より多くの方の意見を取り上げることができます。

「**熟議**」とは、よりよい集団（学校）生活や人間関係を築くために、「協働して取り組む一連の自主的、実践的な活動」を「話し合い」を重ねながら生み出そうというものです。

具体的には、下記のようなポイントを満たしたプロセスを指します。

1. 多くの当事者（保護者、教員、地域住民等）が集まって、
2. 課題について学習し、**熟慮・議論**することにより、
3. 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
4. それぞれの役割に応じた解決策が洗練され、
5. 個々人が納得して自分の役割を果たすようになる。



② 協働

「熟議」の実施を通して学校と地域の信頼関係の基礎を構築した上で、学校運営に地域の人々が「**参画**」し、共通の目標に向けて「協働」して活動していくことが大切です。

③ マネジメント

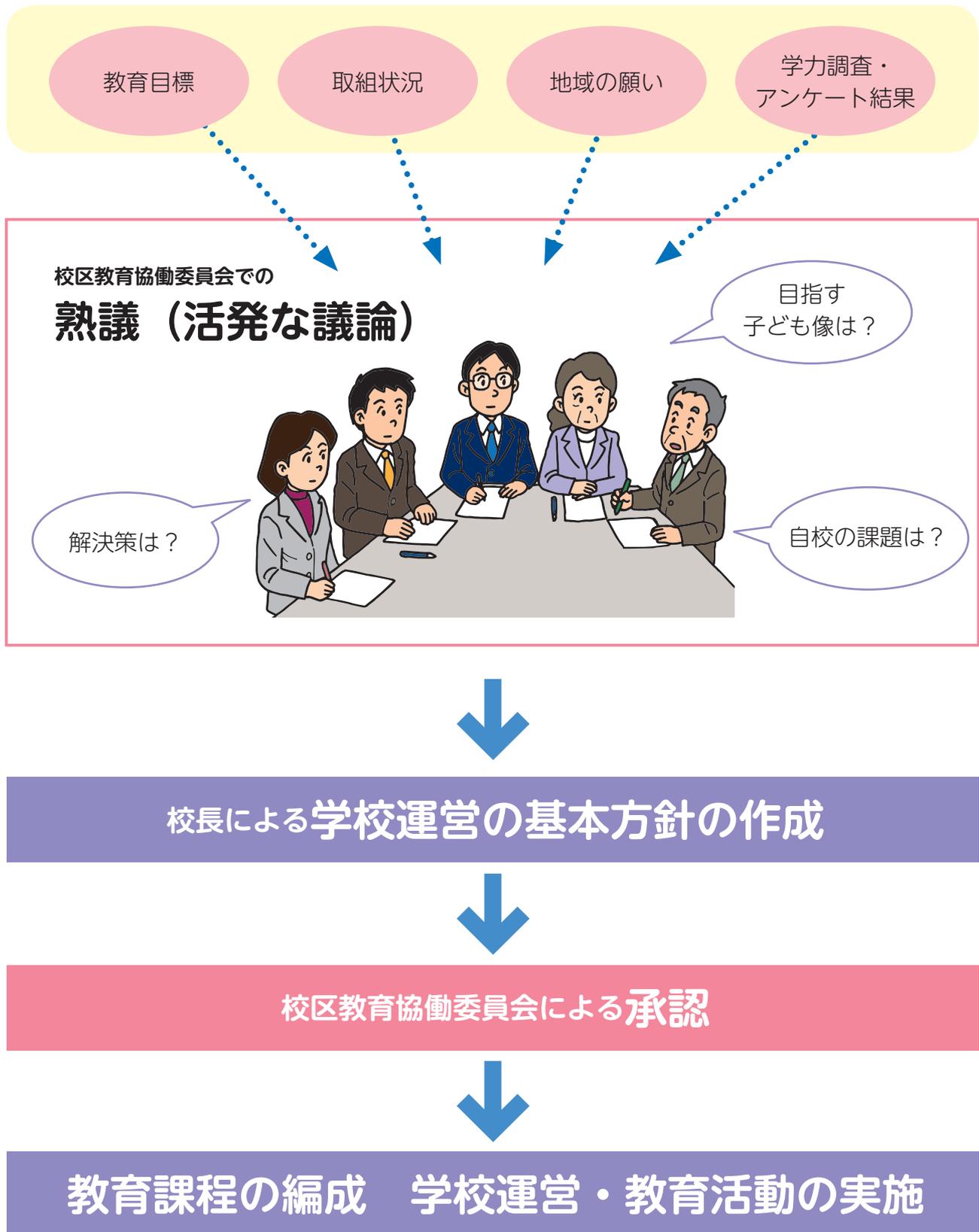
その中核となる学校は、校長のリーダーシップのもと、目指すべきビジョンの達成に向かって学校内の組織運営を管理することにとどまらず、地域との関係を構築し、地域人材や資源等を生かした学校運営を行っていく力が必要です。

校区教育協働委員会の流れ

		①学校運営の 基本方針の承認	②教育活動の 評価	③区費教職員等の 活用に関する意見	④学校支援活動 の企画・調整
4月	第1回校区教育協働委員会 学校：学校経営方針発表 学校年間計画発表		○評価指標の確認		○学校支援活動 計画についての 協議
5月					
6月	第2回校区教育協働委員会				○学校支援活動の 企画・調整
7月	学校：データに基づく前年度の 教育活動の自己評価				
8月	第3回校区教育協働委員会 学校：前年度の教育活動の まとめ(成果指標)		○課題とその改善 策についての協議	○区費教職員等の 活用についての 意見	○学校支援活動の 企画・調整
9月	学校：次年度の学校運営の 基本方針の作成		○前年度の学校評 価まとめ		
10月	第4回校区教育協働委員会	○次年度の学校運 営の基本方針に ついての協議	○学校公開の参観		○学校支援活動の 企画・調整
11月					
12月	第5回校区教育協働委員会	○次年度の学校運 営の基本方針に ついての承認		○次年度の区費教 職員等の活用に ついての意見	○学校支援活動の 企画・調整
1月	学校：次年度教育課程の編成				
2月	第6回校区教育協働委員会 学校：自己評価の実施 (取組指標) 次年度の評価指標の 作成	○次年度の教育課 程について協議	○学校の自己評価 の妥当性につい ての協議 ○次年度の評価指 標の協議		○本年度の学校支 援活動の反省 ○次年度の学校支 援活動について の協議
3月	学校：次年度の教育課程提出				

校区教育協働委員会の役割

1 学校運営の基本方針の承認の流れ



校区教育協働委員会の役割

2 教育活動の評価の概要

評価事項

学力に
関すること

社会性・
人間性の育成に
関すること

体力・健康に
関すること

いじめ防止の
取組に
関すること

特色ある
教育活動に
関すること

校区教育協働委員会による学校評価の特徴

学校評価を行う際の評価指標は「成果指標」と「取組指標」を設定します。そのことで、取組状況と取組によって表れた成果について把握できるようにします。

校区教育協働委員会による学校評価は、教職員の自己評価の妥当性について協議を行うだけでなく、学校評価により浮き彫りになった学校の課題を校区教育協働委員会で共有し、共に改善策を考えます。

本年度の取組の成果は年度末に行う児童・生徒アンケートや次年度始めに行う区学力定着度調査の結果に表れるため、本年度の学校評価の最終まとめは次年度の夏に行います。

学校評価のスケジュール

	前年度分	本年度分	次年度分
4月		評価指標の確認	
7・8月	学力調査・アンケート等のデータを基にした分析		
8・9月	学校評価の結果公表	前年度の課題から本年度の教育活動の見直し	
2・3月		自己評価の実施	評価指標の作成